

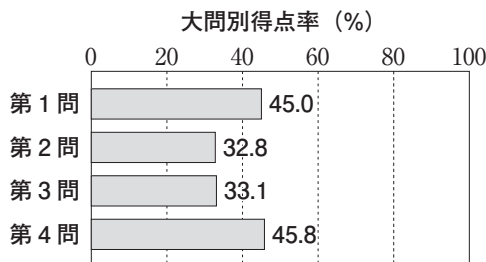
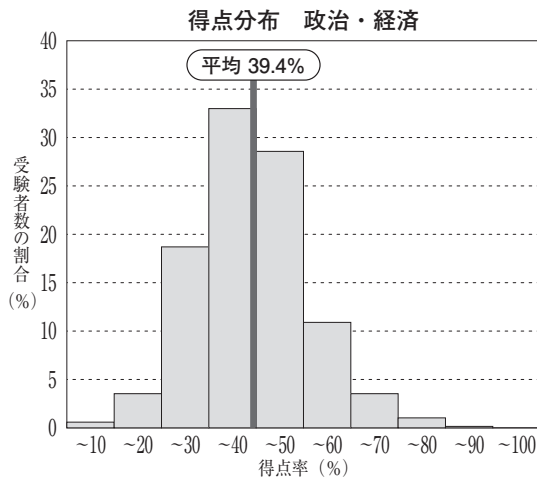
政治・経済

教科書で広範な基礎知識を身につけ、早く全体系を把握しよう。

I. 全体講評

「第1回2月センター試験本番レベル模試 政治・経済」は平均点が39.4点と、低い結果であった。全般的に、基礎知識が身につけていない箇所が多く見られたが、初回でもあるので当然のことであろう。これから勝負である。大いに意欲的に学習しよう。

注意すべきことは、単に暗記に走らず、体系的に理解することである。「政治・経済」は理解の科目であることを銘記すること。「政治・経済」は社会事象の総合的な理解の科目である。現状の理解には、世界的、歴史的経緯まで敷衍する必要がある。つまり地理的・歴史的な時間・空間の広がりを理解して世界観・社会観を育てるのが「政治・経済」の核心なのである。是非、真の「政治・経済」を極めていこう。



II. 大問別分析

第1問 基本的人権

基本的人権の具体的事例を通じ、分類を完全に理解し整理しよう。

第1問の基本的人権については、得点率は45.0%で全問中では平均的な出来である。問5 [5]の日本国憲法における自由権については16.1%で低調。人権の中でも最重要項目の人身の自由について、罪刑法定主義、令状主義の例外、黙秘権、遡及処罰の禁止、一事不再理など重要で独特な用語が幾つかあるので完全に消化しておこう。問6 [6]の社会権については、16.6%とやはり低調。堀木訴訟・朝日訴訟などの代表的判例を理解しておこう。さらに基本的人権の分類表を自分で作成してみよう。大分類では、自由権（身体・精神・経済）・平等権・社会権（生存権、教育権、勤労権）。それらを補強する請求権・参政権などの分類になる。①の職業選択の自由は経済的自由権であり、社会権ではない。問3 [3]の女性の人権は63.8%で出来は良かったが、この問題で①を選択した者が3割いた。微妙な前後関係の設問。まず戦後、衆議院議員選挙法が改正され、女性議員が多数選出され、その議会で日本国憲法を審議・可決、施行されたという経緯を理解しておこう。

第2問 世界の政治制度

大統領制、議院内閣制など、世界の政治制度の現状を網羅しよう。

得点率は32.8%で、やや低い結果であった。世界の政治制度については、大統領制と議院内閣制、その他に分けられる。問7 [17]のロシアの政治制度は14.3%、ワースト3位で、他の事項、CIS、クリミア問題、チェチェン紛争などの理解が不足。ソ連崩壊前後の大統領制、民族紛争、サミットでの扱いなど流れを理解しておこう。問4 [14]は、EUの政治制度。16.8%であった。基本的には議院内閣制に近い制度をとる。立法機関（欧州議会・閣僚理事会）、行政機関（欧州委員会）、欧州中央銀行

(ECB)などの主要機関は理解しておこう。問2 [12]は、アメリカの大統領制の基礎知識について。24.3%で低調。大統領選挙人による間接選挙、法案拒否権、再議決、違憲法令審査権、大統領弾劾について基本事項を理解しておこう。

第3問 国民所得

経済用語や経済理論は今のうちにしっかりと理解しよう。

得点率は33.1%。問1 [19]は、GDPの構成要素について。27.1%。GDPの構成要素。「総」と「純」の違いは固定資本減耗分の違い。GDPの構成要素をしっかりと理解しておこう。問4 [22]は、景気変動と金融財政政策についてで、34.8%。問6 [24]は、家計の可処分所得についてで、36.8%、初歩的なエンゲル係数などを落としていた。問7 [25]は、日本の労働問題についてで、37.8%。非正規雇用者の割合や派遣先、派遣元について理解していない様子であった。問8 [26]は、GDPに替わる様々な指標についてで、21.5%と低調。あまり知られていない指標だが福祉 (Welfare)、開発 (Development)、幸福 (Happiness)の英語で理解するのも方法。経済理論の基礎は、教科書でしっかりと理解しておこう。

問5 [23]は国富の計算。9.0%で断トツのワースト1位。国富とは国の資産合計である。家計で考えると、毎月の所得がフローで国ではGDP、蓄積した財産はストックで国の国富にあたる。ただし国内金融資産は債権者と債務者が相殺されるので計算に入れない。ただし、対外純資産は集計に入れる。国のフロー (GDPなど)とストック (国富)をしっかりと理解しよう。

第4問 戦後の国際経済

戦後の国際経済の変化を大きな流れとして把握しよう。

得点率は45.8%で、良好な結果であった。問5 [31]は、冷戦構造の歴史について。11.8%でワースト2位。戦後の冷戦構造は1991年のソ連崩壊で終焉して歴史は大きく変わったが、まだその影響を引きずっている。NATO、COMECONや朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争は冷戦の代表的事項。歴史事項としても頻出分野でもある。問3 [29]は、日本の貿易についてで、38.9%。戦後日本経済の貿易・成長各局面におけるアメリカや対外的な環境変

化を整理しておこう。問4 [30]はレーガノミクスについてで、31.2%と低調。ケインズ政策の需要制御政策と、供給側からのサプライサイド経済学、貨幣的側面を重視するマネタリストの区別を理解しておこう。問7 [33]はBRICsの経済成長についてで、43.7%。浮沈の激しいロシア、ブラジルに対し、高成長を遂げている中・印は容易に絞られる。問8 [34]は中国経済についてで、46.7%で平均的。アメリカに次ぐ経済大国、中国経済は大きな影響力を持ち初めているので重要事項である。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書を中心に全体の体系をつかむ。

センター試験は、基本的には教科書の範囲から出題される。まず、教科書を体系的に理解するためには、関連する箇所まで広げて勉強すること。そして脚注の細かな解説にも重要事項があるので、意識的に目を通す習慣を付けよう。また、現実のニュースと直結する科目でもあり、絶えず教科書で確認する姿勢を持とう。問題に遭遇したら、すぐ教科書の該当ページが開けるようになろう。

◆戦後の政治・経済の流れを把握しよう。

政治経済は、意外に歴史事項が多く出題される。しかし、年号を暗記する場面は少なく、前後関係と内容を問う問題が多い。関連事項の時系列・時代の流れと因果関係を大掴みに理解することである。

◆次回の模試に向けて。

まず、模試・過去問に早くから目を通し、目標・焦点を定めること。毎回の模試の解説を熟読し、教科書や参考書、用語集などで理解を確実なものにしておこう。まだ始まったばかりだが、大まかな予定表をつくり、夏頃までには全分野の構成が掴めて、教科書の該当箇所を即、開ける様にまでなりたい。そして、参考書及び用語集は必携であり、メディアによる時事問題・ニュースも理解出来る様になろう。